

障がい児側弯症手術普及のための課題検証研究へのご協力をお願い

小児の高度脊柱側弯症は重篤な呼吸器障害、消化管障害に至る重要な疾患です。特に症候性側弯症や神経筋性側弯症は保存的な装具治療に抵抗し、手術治療のみが有効とされますが、本邦ではまだ認知度が低いのが現状です。手術に伴う高い合併症率が知られていますが、患者や家族、介護者の高い治療満足度も報告されており、当科では2012年より同手術を積極的に行い、高い介護者満足度を得ております。しかし、未だに紹介が遅れ重度変形となっている症例が散見されます。世界では、近年益々、早期介入の重要性が論じられており、今回の研究では、当科に紹介される時期や重症度、当院以外のどのような医療施設に神経筋性側弯症患者が集積しているのかを明らかにし、それらの施設への働きかけを検討することにより、早期発見、早期治療介入を可能にすることに役に立てたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

研究の目的：当科紹介時の状況（紹介元の診療科・診療形態等）を明らかにする。

紹介状と通常診療で撮影されている画像を利用して側弯の重症度を評価する。

研究に利用する情報：カルテの診療情報より以下の項目について利用します。

初診の年齢、基礎疾患、ジストニア等の神経症状、初診時のレントゲン画像、側弯の角度及び重症度、紹介元の診療科、診療形態

研究対象となる方：2014～2018年に当科紹介となった神経筋性側弯症患者

情報の管理責任者：こども医療センター 整形外科 中村直行

本研究はヘルシンキ宣言（2013年10月WMAフォルタレザ総会での修正版）及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2014年12月22日（2017年2月28日一部改訂））に従い実施し、患者さんの個人が特定できる情報とは切り離れたうえで使用するため、個人情報外部に漏れることはありませんし、プライバシーには十分に配慮して行います。また、研究の成果は関係の学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できることはありません。

本研究は企業等からの資金提供は受けておりません。開示する利益相反もありません。

あなたの希望があれば本研究の計画書の開示が可能です。また、本研究の対象となる患者さんやあなたのお子さんの情報は利用しないでほしい等のご要望がございましたら、下記連絡先までご連絡ください。その場合には本研究への情報の使用はいたしません。また、そのことで今後の診療において不利益を被ることもございません。

問合せ先 研究責任者 整形外科 中村 直行
倫理委員会事務局（総務課内）

地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター
Tel : 045-711-2351 内線 2212
FAX 045-721-3324